

2022年度第6回10月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2022年10月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	若井明香
	委員	佐子達仁

4. 議 題

- (1) 「ラジオドラマ 家族草子 おかあちゃんの口紅」 全4話
放送日8/6、8/13、8/20、8/27 土曜日8:10～

- (2) その他

5. 議事内容

- (1) 「ラジオドラマ 家族草子 おかあちゃんの口紅」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：家族のありかたや思い出は十人十色。そんな様々な家族を描いた森浩美さんの小説「家族小説」シリーズの人気朗読劇「家族草子」をラジオドラマとして放送。森浩美さん小説「おかあちゃんの口紅」をラジオ用に書き直したものを森浩美さん主宰の劇団員とともに作り上げた作品。「家族」について考えたり「家族」のことを思い出したりする10分間の番組。

各委員からは、

- 「ラジオ家族草子」とはよくいったもの。「枕草子」のようなものかと気楽に聴いたら意外にもしんみりとさせる筋運びでドラマの朗読がかくも心に響かせるものかと感心させられた。テレビドラマのように既成の映像で縛られず、遠い記憶までが自分なりの影像で描き出されてくるラジオドラマの良さを改めて見直しました。朗読者の旨さもあって土曜日の朝放送にはピッタリの番組でした。
- ラジオドラマというのは画像が無いので、聴く側に想像させることを可能にするととても良いものだと思います。それと同時に、演者の技量が問われるものでもあると、改めて感じました。こうしたラジオドラマが番組として構成されているのは、聴取者にとって静かで豊かな良い時間になっているのではないのでしょうか。
- ラジオドラマは聞く人がそれぞれに声優の声や音でイメージを膨らませ、次を楽しみにして聞くものだと思う。テレビ以上に制作は難しいのかもしれないと感じた。今回のラジオドラマは、特に第一話が、押しつけがましい時代錯誤な常識を持った中年男性の、高血圧気味で負のオーラに満ちあふれた独白や会話が続き、あつという間に聞き続けたくないとってしまった。ラジオならどうすればそんなネガティブイメージを持たれないようにできるのか、検討が必要なのではないか。4話完結型だったが、ラジオドラマを楽しみにするファンが付けば、もっと長い回数で、かつ、もっと短いサイズで展開できると思うし、その方がいいのではないか。
- 脚本もよく作られているとともに、出演者の意気ごみや、熱いものが感じられ、完成度の高いラジオドラマだったと思う。主役男性の感情のあふれる表現が、聴取者を引き込む力にもなっていて効果的だったと思う。土曜日の朝という放送時間帯については、疑問を感じる。家族や幸せとは何か、さらには聴取者個々の人生といったものにまで思いを馳せさせる内容であり、こうした思いを深くするのは、やはり夜なのではないかと思う。因みに他局のラジオドラマ等の時間帯を見てみると、やはりほとんどが夜の時間帯であり（中には深夜というものもある）、やはり一人思いを深めるのは夜だろうと感じた。
- ラジオドラマは初めての体験であるが、視覚情報がない分、自分の経験と重ねつつ、自分なりに解釈した情景が広がっていく感覚が新鮮だった。また、心情などを語る部分に会話調の部分が入ることで、単調にならずに聞くことができた。放送時間が土曜の朝なので、内容的にこの時間帯がよいのか、視聴層をどのように設定しているのか。

- 近年、核家族化や少子化などの進展にともない、従来よりも家族関係が希薄化していく中で、家族について考えさせる番組である。今回の放送を聴いて、改めて家族の大切さを感じたところである。放送時間は10分間と短く、気軽に聴くことのできる適当な時間であると思うが、放送時間帯を考えると、休日が始まる土曜日の朝のため、今回の内容はリスナーに少し重く感じるのではないかと懸念した。
- ストーリーが非常に身近であり、かつ、展開が興味深い。家族を題材にテンポよく物語がすすみ、言葉だけでも映像が浮かび、ドラマをみているかのようであった。日常当たり前存在する家族のありがたみを改めて感じられるものであった。リスナーがそれぞれの自分自身の思い出に置き換えながら、家族というものを考えることのできる素敵な番組であると思います。
- ラジオドラマ自体を初めて聞いたのですが、心から面白いと思える作品でした。自動車で運転しながら聞きましたが、細かい描写、声のトーンでこんなにも受け手に伝わるものなのだと大変感動しました。主人公の年齢や家族構成等、自分に共通するものもあり、感情移入させられる作品でした。テレビドラマを聞くのとは違い、「聴く」だけで頭の中にいろいろと浮かんでくることのできるのがラジオドラマの魅力だと感じました。10分×4回、約1ヵ月で話が完結するのもテンポが良いと思いました。
- 昨日も今日も明日も当たり前のようにやってくる毎日の大切さや自分の今を振り替えさせられる内容だった。私も歳を重ねることで何かをしてあげてほしいと考え、してあげたい。という相手を思いやる気持ちが薄れてきているのではないかと立ち返り、当たり前の毎日の大切さを親はもちろんの事、自分の家族などにも当てはめてみようと考えさせられる内容であった。一話一話の時間は短いですが、全4話でここまで考えさせられる事はなかなかないと感じた。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2022年11月20日)
- ② 当社のホームページに掲載(2022年11月18日)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2022年11月17日～)

以上